



チェルノブイリ30年・フクシマ5年／国際シンポジウム

チェルノブイリ・フクシマを繰り返すな

事故被害者の補償と人権の確立に向けて

フクシマを核時代の終わりの始まりに

チェルノブイリ・フクシマからゲストをお招きします！

*ゲスト・スピーカー

＜チェルノブイリ事故被災地から＞

ジャンナ・フィロメンコ : 「移住者の会」代表 (ベラルーシ)

パーベル・ブドビチェンコ : 「ラディミチ・チェルノブイリの子ども達のために」元代表 (ロシア)

＜フクシマ事故被災地から＞

馬場 有 : 福島県浪江町 町長

秋葉信夫 : 「フクシマ原発労働者相談センター」事務局長 (いわき)

*プログラム

I部 : チェルノブイリとフクシマを結んで

- ・ 基調報告
- ・ チェルノブイリからの報告
- ・ フクシマからの報告
- ・ 討論

II部 : チェルノブイリ・フクシマを繰り返させないために

- ・ 特別報告 広島・長崎・福井・福島から
- ・ 討論
- ・ アピール提案、討論、採択



大堀相馬焼「走り駒」

日時 : 4月3日 10時~16時半

場所 : 大阪府教育会館 (たかつガーデン8階)

主催 : チェルノブイリ30年・フクシマ5年—国際シンポジウム実行委員会

シンポ問合せ : 救援関西事務局 tel:0722-53-4644, e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

4・3 「国際シンポジウム」に 是非ご参加を！

フクシマ原発事故5年が経ち、まもなくチェルノブイリ原発事故30年を迎えます。チェルノブイリとフクシマの原発重大事故は、国境を越える広範な地域を放射能で汚染をし、何百万人もの市民と労働者に被ばくを強いています。事故の被害は長期にわたり、人々の命や健康のみならず、生活全体、さらに社会・経済・文化等にも及び、生命権・健康権、生活権をはじめ様々な形で「人権」が侵害されています。

フクシマ事故は世界に大きな衝撃を与え、核と人類は共存できないことをあらためて示しました。しかし、日本政府と電力・原子力産業は、重大事故が起こることを前提に川内原発3・4号、高浜3・4号原発の再稼働を強行し、また原発輸出を進めようとしています。そのような中で高浜4号はトラブルにより、3号は大津地裁での稼働中の原発の停止を求めるといふ、画期的な運転差止めの仮処分決定により再度運転を停止しました。関西電力は高浜3・4号を再稼働を断念すべきです。

チェルノブイリ事故30年とフクシマ事故5年を迎える今、改めて被害者の方々の体験に学び、「重大事故をこれ以上繰り返させてはならない」という思いをより多くの人々に伝えていきたいと思ひます。さらに、ふたつの事故とその被害の普遍性と、歴史的・社会的背景による特殊性を理解し、被害者の補償と人権の確立・回復をめざす運動の前進に繋いでいきたいと思ひます。また、ふたつの原発重大事故の被害者どうしが出会い、交流と連帯を深めるきっかけにしたいと思ひます。

ヒロシマ・ナガサキから70年が経ちました。被爆者は生き地獄の中から「人間が人間として人間らしく生きる権利（人格権）」を要求し長期にわたって闘ってきました。その被爆者運動の教訓に学び共有し継承し、これ以上核被害者＝ヒバクシャを生み出さないために、原発重大事故をこれ以上繰り返させないために、そして「フクシマを核時代の終わりの始まり」にすることをめざしてさらに進んでいきましょう。

<ゲストプロフィール>

* ジャンナ・フィロメンコ さん／「移住者の会」 代表 （ベラルーシ）



チェルノブイリ原発から北西 40km のベラルーシ共和国ゴメリ州ナローブリア出身。事故当時、夫と幼い二人の息子と暮らしていた。ナローブリアは高汚染地（福島「避難区域」と同レベル）だったが、ソ連政府は一般市民も「生涯 350 ミリシーベルトまでは許容される」（注）との施策をとり、人々は住み続けた。住民運動の結果、「チェルノブイリ法」（1991 年）が制定され、同地区は「移住対象地域」となり、首都ミンスクの集合住宅の権利を得て家族で移住。慣れない都会で「ゼロからのスタート」だった。同じような境遇の人々が次第に連絡を取り合い「移住者の会」を結成。

「事故 15 周年」（2001 年）に「救援関西」の招聘で来日。欧州各地でも体験を語り「核はコントロールできず、使ってはならない。誤りを繰り返さないで」と訴えている。

[注：国際放射線防護委員会（ICRP）の当時の一般公衆の被ばく限度が年 5 ミリシーベルトで、その 70 年分で「生涯 350 ミリシーベルト」とされた。]

*パーベル・ブドビチェンコ さん／「ラディミチ・チェルノブイリの子ども達のために」

元代表（ロシア）



チェルノブイリ原発から北東 170km 離れたロシア共和国の高汚染地、ブリヤンスク州ノボツィプコフ市在住。人口約 4 万人の同市は、「チェルノブイリ法」（1991 年）制定後も、財政的理由などから移住政策が進まず、住民の多くは汚染地に住み続ける選択を強いられた。1987 年当時、教鞭を取っていた学校の生徒たちと共に、高齢者や障がい者の支援ボランティア活動を始めた。それが基になり、NGO「ラディミチ-チェルノブイリの子どもたちのために」を創設。「ラディミチ」は、子どもたちの保養キャンプ、甲状腺検診、住民に放射線リスクを知らせる「チェルノブイリ情報センター」など、10 以上のプログラムに取り組んでいる。「事故 25 周年」（2011 年 4 月）に原水禁の招聘で来日。「人類は、チェルノブイリとフクシマの共通の経験から出発し、新しい目で見直さなければならない」と、各地で訴えた。

*馬場 有 さん／福島県 浪江町長



浪江町議、町議会議員、福島県議を経て、2007 年 12 月より現職。「協働のまちづくり」の理念の下、町民が主体的に参画するまちづくりを本格的にスタートさせようとした矢先に東日本大震災が発生。直後から対策本部を設置し、その後町役場津島支所、二本松市役所東和支所、福島県男女共生センターと、次々と事務所の移動を強いられる中、一貫して事務スペースで職員と寝食をともにし、捜索や避難の対応にあたる。現在もなお続く避難指示の中、「どこに住んでいても浪江町民」を実現すべく、避難生活支援やふるさとの再生のため陣頭指揮にあたっている。また「未曾有の原発災害の被害者となった浪江だから訴えることができる『原発エネルギーに依存しない社会』を体現する町づくりを先陣切って世界に示したい」とメッセージを発信。

浪江町は現在、二本松市内の仮設庁舎に大部分の機能を移転中だが、2013 年 4 月より浪江町本庁舎での一部業務を再開。町内の道路・上下水道などインフラ復旧、また復興公営住宅や医療施設、教育機関などの整備を進め、帰町に備えている。また、町民の健康診断と甲状腺検診、内部被ばく検査を毎年実施し、「放射線健康管理手帳」を全町民に交付（2012 年）。「東京電力福島第一原発事故の賠償・責任の当事者である国に対し、原発事故被災者の医療費の恒久的な無料化」を要求。

*秋葉 信夫 さん／「福島原発労働者センター」事務局長（いわき）



フクシマ原発事故は、未だ収束していない。30～40 年とも言われる廃炉作業に携わる労働者は、80 万人を動員したチェルノブイリ事故を遥かに凌ぐと言われ、将来的な労働力不足、過酷な労働条件と被ばく労働による健康被害が懸念されている。雇用形態、労働条件、被ばくと健康管理など、様々な問題が生じているが、収束・廃炉・除染作業に従事する労働者は、解雇や不利益を恐れてどこにも相談できずに悶々としている。そのような労働者に寄り添う「かけこみ寺」をつくろうと、2015 年 2 月に、いわき市で「フクシマ原発事故労働者相談センター」が設立された。センターでは、相談事業、企業、行政・国への要請や交渉などに取り組むと同時に、福島第二第原発廃炉を求め、脱原発を目指して

いる。

秋葉さんは、元自治労いわき市職労委員長。センターの事務局長を勤め、労働者からの相談に対応している。

<ジャンナさん滞在予定表>

月 日	行動予定	宿泊
3月25日(金)	成田空港着。上野へ	上野
3月26日(土)	「原発のない未来へ! 3.26 全国大集会」(代々木公園) でアピール。	同上
3月27日(日)	14:30-16:30「福島原発事故から5年、チェルノブイリ原発事故から30年・さよなら原発—世界から」市民集会(星陵会館) 講演。	同上
3月28日(月)	いわきに移動。仮設住宅訪問・交流。旧、避難区域等、視察。 夕食・交流会(古滝屋)	いわき
3月29日(火)	二本松市に移動。浪江町二本松事務所で町長表敬訪問。飯館村視察。 福島市に移動。福島市で講演会(福島県教育会館)。夕食・懇親会。	福島
3月30日(水)	午前、阿武隈茶屋(計画中)。 午後、郡山市に移動。市民団体(3a郡山)と交流。 福島空港より伊丹空港へ。後、宝塚へ移動。	宝塚
3月31日(木)	午前:宝塚「すみれ発電」見学。 14:00-16:30 宝塚市民交流会(宝塚市立男女共同参画センター4)	同上
4月 1日(金)	奈良に移動。13:00-15:00 交流会「繰り返さないで、チェルノブイリ、フクシマ!」(奈良市はぐくみセンター1階)。武生へ移動。	武生
4月 2日(土)	午後:市民講演・交流会(越前氏健康福祉センター)。大阪に移動。	松原
4月 3日(日)	10:00-16:30「チェルノブイリ30年・フクシマ5年/国際シンポジウム」(大阪府教育会館(たかつガーデン)8階)。夕食・交流会	同上
4月 4日(月)	観光と休息。	同上
4月 5日(火)	関空より帰国	



3月9日 大津地裁画期的決定

「高浜3, 4号運転をしてはならない」

久保きよ子

3月9日、大津地裁は、新規基準のもとで原発の再稼働を進めてきた関西電力と原子力規制委員会に対して、再稼働中の原発を運転してはならないという停止命令を決定しました。これは、2014年5月21日 福井地裁による大飯3・4号運転差し止判決と、2015年4月14日 高浜3・4号運転差し止仮処分決定に続くものであり、運転中の原発に即時停止を命じた画期的な仮処分決定です。

今年はフクシマ事故発生から5年目に当り、フクシマをくり返さないことが改めて問われています。私たちは、関西電力に対し、大津地裁決定を受け入れ、高浜3・4号を廃炉にすること、高浜1・2号を含め高浜・美浜・大飯の全原発を廃炉にすることを求めます。大津地裁決定を踏まえ、川内原発の運転停止と全原発の再稼働中止を求め、脱原発へ前進しましょう。

今年1月から高浜再稼働反対の取り組み



1月24日 高浜現地での防寒姿の方々

1月24日は高浜現地で、1月27日は関電本社前で高浜原発再稼働阻止の全国集会が開催されました。

1月24日の前々日から大寒波襲来の天気予報が出ており、積雪や凍結などで、高浜現地までたどり着けるか

どうか、心配をしていましたが、天気も私たちに味方をし、青空の下、元気いっぱい集会、高浜町内パレードをしました。(参加者数600名)本集会は、高浜文化センターで、全国集会実行委員会の木原壮林さんが、主催者挨拶をし、「人間の手に負えない原発を動かすな」と、訴えられ、中嶋哲演さんは、「一旦事故が起きれば、立地地元も消費地元も被害から逃れられない」と訴えられました。



2月25日 関電前で「再稼働反対」を訴える相棒

1月27日の関電包囲行動全国集会では、私の相棒が、「踏切事故を防ぐには、踏切をなくせばいい！新幹線は踏切がない！原発の事故をなくすには、安全対策や防護対策ではなく、原発をなくせばいいのです！」と、訴えていました。唐突な話でしたが、多くの方々の共感を得ていました。

原発再稼働を許せば、原発の事故の危険性は避けられません。被ばくの心配はなくなりません。核のゴミの処理処分は全くめどが立ちません。原発を無理やり動かさなくても電気は余っているのです。原発を動かさなければならぬ正当性は全く見つかりません。それでも、関西電力は、高浜3, 4号、大飯3, 4号の再稼働、40年超えの美浜3号高浜1, 2号まで再稼働させようと画策しています。許せません。

3月11日には、私たちは、大津地裁決定を受け、フク

シマ5年を期して、改めて関西電力に申し入れを行いました。

1. 「フクシマ事故をくり返してはならない」という国民過半数の熱い思いを代弁した大津地裁決定を受け入れ、高浜3・4号の再稼働を断念し廃炉にしてください。
2. 高浜1・2号の40年超運転申請を撤回し、高浜発電所を閉鎖してください。
3. 美浜3号の40年超運転申請を撤回し、美浜発電所を閉鎖してください。

4. 電力自由化を機に、原発依存経営から脱皮し、再生可能エネルギーを軸とした経営に転換してください。

また、1500名が参加した3月13日の御堂筋パレードでは、30年以上も前の日高原発反対運動と一緒に闘った和歌山のTさんが、大きなタペストリー3枚を持って参加されました。原発はイヤ！原発NO！の黄色のジャンパーを着た多くの人たちと共に、元気よくパレードをしました。原発がなくなるまで闘い続けましょう。

さよなら原発 関西アクション 3.13

もちろん一件落着にはほど遠く、まだまだ前途多難ではあるけれど、心なしか参加者の表情が明るい3月13日『さよなら原発 関西アクション』だった。大津地裁の高浜原発3・4号の運転差止めを命じる仮処分決定が微かに春の気配を運んで来たからだろう。本集会の参加者は1300人と、会場2階席まで満員御礼だった。

まずは、午前中のプレ企画『女のひろば』に参加。

水戸喜世子さん（子ども脱被ばく裁判）が、福島你的生活環境の汚染実態や「子ども脱被ばく裁判」の目的や裁判の現状など報告され、子どもたちが安全な場所で教育を受ける権利を守ろうと訴えられた。事故前は「原発安全神話」がまかり通っていたが、現在福島では「放射能安全神話」が広がろうとしている。東電や政府が一番隠したいと思っていることを公開していかねばならないと、お話を結ばれた。



次いで、武藤類子さんが福島の現状・サイト内では汚染水処理は手のほどこしようがない状態・町では除染した放射性廃棄物（本来なら黄色いドラム缶に詰めて管理）を自宅の庭に置いて「窓を開けると放射能ゴミ！」という地域がある・放射性廃棄物の焼却灰をコンクリート固化して道路基礎などに再利用の方向へ・・・など、汚染の拡大と除染の困難を語られた。・無理やり帰還政策が推し進められ、補償の打ち切りで、

住民は「放射能をガマンか貧困をガマンか」の選択を迫られている・比較的汚染度が低い会津若松市のモニタリングポストが撤去される・・・など、フクシマ原発事故がなかったかのような振る舞いが横行している

のを憂いておられた。また、「福島原発刑事訴訟支援団」が結成されたので、参加協力を！と呼びかけられた。

午後の集会でも、武藤類子さんの発言の場があり、ここではスライドを見ながらの説明だった。

親子避難者の迫力ある津軽三味線と民謡を聞き、長丁場で一息。

広瀬隆さんは『日本の破滅を防ぐ』と題して、力強い講演。電力自由化に際して広瀬さんは、日本の火力発電所はかなり改良されているとの見解で、ガスコンバインドサイクルの応援団、石炭火力も悪くないとおっしゃる。加えて「原発を止めても火力発電所で十分やっていきますから、再生可能エネルギーはゆっくりと普及してください」という主張に関しては、疑問を感じざるを得ないし、再エネ推進はお言葉どおりのんびりはしてられないけれど・・・ 原発は止める！というところで一致している。既存電力、特に原発依存度の高い関電から消費者が離れることで原発の息の根を止めよう！と意気軒昂。電力会社は大手の会社には安い電力を供給し、家庭から利益の7割を得ているので、私たち一般消費者の動向がモノを言うのだ。このチャンスを活かし、関電に大打撃を与えよう！

全ての原発、特に西に位置する原発を止めないと、事故が起これば放射能は東へ向かって移動し、日本が破滅だ！広瀬さんの口調は全部！！付きでしたね。



福井からのアピール・子ども合唱・大人合唱（もうちょっとで老人合唱って書くところやった～チラホラ若い人もいました～）のあと、御堂筋パレード。大結集のみなさんは原発の廃止を通行人に訴えました。（新聞にも写真入りで報道されて、よかった）

“チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西”はロビー・ブースでベラルーシグッズ＋ケーキ販売や

4月3日の国際シンポのチラシまきも行った。猪又さんは実行委員としてイベント運営に忙しく、私だけではもならんで、“ゴーゴーワクワクキャンプ”のメンバーが助っ人に来てくださったのは、とてもありがたかった。またよろしくお願ひします。（押し売りケーキ屋たなか）

カンパ納入／お礼とお願い



多くの皆さまの「国際シンポ」への賛同、本当にありがとうございます。開催もあつという間に眼前に迫ってきました。皆さまのご支援に励まされ、準備にいそしんでおります。

今回、再度「チェルノブイリ30年・フクシマ5年／際シンポジウム」の振込用紙を同封させていただきました。重ね重ねのお願いになりますが、シンポジウムの趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いたします。



また当日へも、お誘いあわせの上ご参加をよろしくお願いたします。

なお、すでにカンパのご協力をいただいた方には重複する失礼をご容赦ください。

カンパ・会費の納入ありがとうございました！！

2016. 02. 08～2016. 03. 23

東野せつ 齋藤充子 稲田みどり 佐藤みえ 斉藤玖仁子 森本良子 奥平純子 伊賀上菜穂 藤田達
小林まゆみ 大野ひろ子 吉峰祥子 木村英子 熊沢滋子 高木宏子 向井千晃 鎌田妙子 根生恵子
猪又雅子

(順不同・敬称略)

ニュース発行：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

連絡先：〒591-8021 堺市北区新金岡町1-3-15-102 猪又方

tel: 0722-53-4644

e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

郵便振替：00910-2-32752

口座名：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西